

2014 文部科学省  
総合的な教師力向上のための調査研究事業

桃山学院大学

「現職教員と学生とが協働しながら実践的指導力を高める研修の開発」

※ 本事業についてアンケートを行い、その結果を集計し、今後の参考とさせていただきますので、ご協力をお願いしま

あなたがあてはまるものに○をしてください。① 1. 男 2. 女  
② 1. 教員 2. 大学生(教職) 3. 大学生(教職外) 4. 該当なし  
③ 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代

- ①今日のプログラムは、いかがでしたか。  
1. とてもおもしろかった 2. おもしろかった 3. おもしろくなかった 4. わからない
- ②今日のプログラムはわかりやすかったですか。  
1. とてもわかりやすかった 2. わかりやすかった 3. わかりにくかった 4. わからない
- ③今日のプログラムを教材づくりに生かせそうですか。  
1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. あまりそう思わない 4. そうは思わない
- ④このような企画があれば、また参加したいと思いましたか。  
1. 是非参加したい 2. できれば参加したい 3. 参加したいとは思わない 4. わからない
- ⑤このような企画に参加しやすい時期はいつですか。(2つ以上○を付けてもよい)  
① 1. 夏休み 2. 冬休み 3. 土曜日 4. 日曜日 5. その他( )

◎講演「マザー・テレサの活動とは」について、ご質問など自由に記入してください。

◎合同研修「マザー・テレサの教材化」の内容について、ご質問など自由に記入してください。

◎その他ご自由に意見・感想を記入してください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。  
返信用封筒をご使用のうえ、お近くの郵便ポストに投函していただきますれば幸いです。



Go!Go! Andrew!!

平成 26 年 12 月 8 日

## 利用許諾書

平成 26 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業  
前田 徹生 殿

〒141-8675

東京都品川区上大崎 2-19-9

光村図書出版株式会社

第三編集部長 林 清



平成 26 年 12 月 4 日付けでお申し越しの下記の件につき、別記条件の下に許諾いたします。

弊社が発行した平成 26 年度版小学校道徳副読本より下記の文章および写真、地図を、貴研究事業における研修資料として利用する件。

### 記

① 原著作者の権利処理をすること。

「マザーテレサ」 (道徳 6 年 P178-181)

文章・写真：沖 守弘先生 ご許可いただきました。

地図：ジェイマップ ご許可いただきました。

② 会社名・出典を明示すること。

以上

# 34 マザーニテレサ

沖守弘 文・写真

今から五十年以上前、インドのカルカッタ（現在のコルカタ）の町は、戦争やききんのために、貧しさに苦しむ人々でいっぱいでした。修道院にいたマザーニテレサは、「自分がなすべきことは、貧しい人たちの中に飛びこみ、その中でも、最も苦しんでいる人たちに全てをささげて生きることではないか。私は、\*スラムの貧しい人の中の、さらにもっと貧しい人たちのために仕える」とちかい、修道院からスラム街へ出ていったのです。

\*スラム  
貧しい人たちが  
寄り集まって住ん  
ている区域。

ちかいを立てて四年目、マザーは、子どもや病人の世話をするために、毎日、スラム街を歩き回っていました。

そんなある日、マザーは、道端に行きだおれているおばあさんに出会いました。皮膚はかわき切っていて、死んでいるようにしか見えません。そのとき、うてが「<sup>いっしょく</sup>一瞬ひくりと動きました。「まだ、生きています！」

マザーはおばあさんをだき上げると、病院へと急ぎました。

病院では、だれもマザーに関わろうとせず、ようやく現れた医者も、ぶっきらぼうな口調で、おばあさんを引き取るつもりはないと言うのです。

「どうせ死ぬに決まっている人間は手当てのしようがないし、<sup>しほり</sup>収容する場所もないんですから。」  
「お願いします。この人は生きていますよ。」

「そうかもしれませんが、このカルカッタには、そういう人は何百人もいるのですから……。」

「だから手当てをしないとおっしゃるのですか。」

医者は答えません。

「私は、命のある人を見放すことはできません。あなたがこの人を受け入れてくださるまで、ここを動きませんから。」

敬しかった医者の表情がやわらぎ、笑い顔になりました。

「分かりました。マザー、分かりましたよ。」

医者は、そのおばあさんのために場所をあたえることにしました。

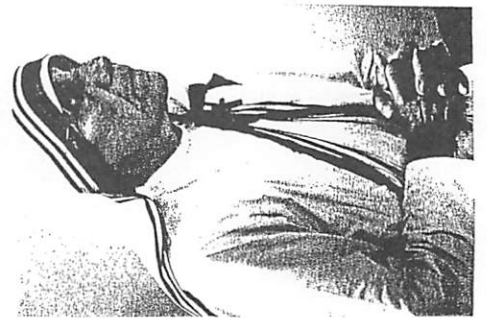
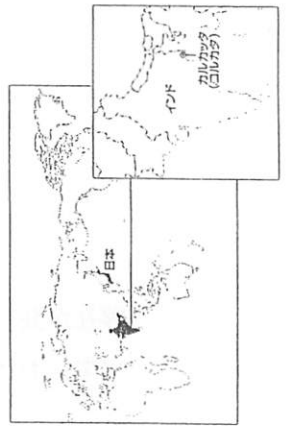
おばあさんを預けると、マザーは病院を出ました。マザーの心には、「このカルカッタには、そういう人は何百人もいる。」と言った医者の言葉が、重くのしかかっていた。

マザーは、自分のなすべきことは、医者からも見放された道端で死を待つしかない人々が、安らかに死をむかえることのできる家を造ることだと考えました。

マザーはそのまま市役所に行き、そういう人たちのための場所がほしいとたのみこみました。事情を聞いた保健係の役人は、マザーを、\*ヒンズー教寺院の裏手にある空き家へ連れていきました。

「\*キリスト教徒のあなたには、気に入りませんか。」

「とんでもない。使わせていただきます。」



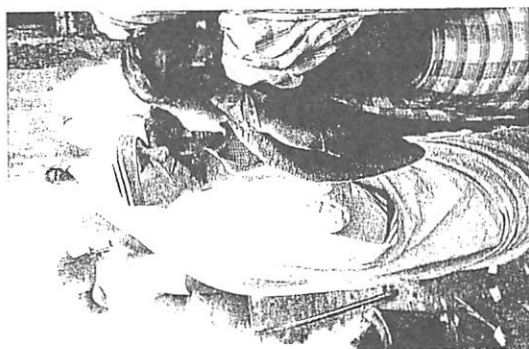
マザーニテレサ (1910年-1997年)

\*ヒンズー教  
インドで起こった  
宗教。  
\*キリスト教徒  
キリストの教えにも  
とづく宗教の信者。

死を待つ人の家  
見習い生の若い女性が二人の  
老人に話しかけると、二人は  
いつまでも手をはなそうとし  
ませんでした。



早朝の市内を行くマザーを  
見かけて、救いを求めてき  
た若い母親と子ども  
このように、マザーを引き  
止めて、生活の苦しさをうっ  
たえる人々がたくさんいま  
ました。



聖なる子どもたちの家  
マザーは、〈死を待つ人  
の家〉を造った3年後に、  
貧しさゆえに捨てられた  
孤児たちを養育する施設  
を造りました。



こうして、マザーは、〈死を待つ人の家〉を始めました。一九五二年（昭和二十七年）のことです。

「私たち人間にとって、最も悲しいことは、貧しかったり病気やおなかをすかせて死んだりすることではないの  
です。それは、だれからも相手にされないことです。自分はこの世にいない人間だと思ひこむことです。この世  
ていちはん悪いことは、そういう人に対する思いやりや愛が足りないことです。」マザーは固く信じていました。

だからマザーは、運びこまれてきた一人一人の体を心きこめて洗い清め、そまつながらも清潔な衣服に着がえさ  
せて、ベッドにそつと横たわせたのです。しつかりと手をにぎり、温かいスプーンをゆつくりと口に運んで食べさ  
せたのです。今死にかけている人であっても、「あなたも、私たちと同じように、望まれてこの世に生まれてきた  
大切な人なのです。あなたには、もつともつと生きてほしいのです。」と、最後まではげましながら、力をこめ  
て手をにぎり続けたのです。

一九七九年（昭和五十四年）十二月十日、マザーは、ノーベル平和賞を受賞しました。

「世界中の最も貧しい人々に代わって、賞をいただくことにしました。私には、受賞の晩さん会はいりません。ど  
うか、その費用を貧しい人たちのためにお使いください……。」

マザーの受賞は、世界中の人々から、喜びをもってむかえられました。



マザー・テレサは、「最も悲しいことは、自分  
はこの世にいない人間だと思ひこむこと」と  
言っていますが、それは、どんな意味でしょう。



今までに、心の美しさや気高さを感じたことは  
ありますか。

筆者 沖守弘 一九二九年― 京都府生まれ。写真家。  
出典 『マザー・テレサ かぎりない愛の奉仕』 くもん出版

## 第四学年道徳指導案

指導者 辻本 早春

- 1、主題名 3-(1) 生命尊重
- 2、資料名 マザーテレサ (光村図書 きみがいちばんひかるとき6年)
- 3、本時の目標 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
- 4、本時の展開

	児童の学習内容と主な発問	指導上の留意点
導入 (五分)	<p>1、マザーテレサについて簡単にふれる。</p> <p>①この人を知っていますか？</p> <p>②この人は何をした人か知っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マザーテレサの拡大写真を見せる。</li> <li>・正解が出なければ、紹介をする。</li> <li>・知らなければ、資料の最初の四行を読み、マザーテレサについて簡単に理解させる。</li> </ul>
展開 (前半十分)	<p>2、資料を読み、マザーテレサがどんな人なのかを詳しく知る。</p> <p>①誰が出てきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マザーテレサ</li> <li>・医者</li> <li>・おばあさん</li> </ul> <p>②マザーテレサはどんなことをしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんを病院に連れていった。</li> <li>・医者におばあさんの手当てをすることを頼み込んだ。</li> </ul> <p>③マザーテレサはどんなことを思いながらおばあさんを病院に連れて行ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんの命を助けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四年生には少し難しい文章なので、大体的内容を掴ませる。</li> <li>・ペアで話し合わせる。</li> </ul>
展開 (後半十五分)	<p>3、資料後半部分を読み、マザーテレサの魅力について話し合う。</p> <p>①マザーテレサの魅力(素敵なところ)ってなんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりの命を大切にしているところ</li> <li>・自分よりも相手を思いやる場所。</li> <li>・どんな命も大切にすると場所。</li> </ul> <p>②こんな行動をとる人をどう思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えるのが難しい子には、どこの文章が一番心に残ったかを考えさせる。</li> <li>・十分な時間をとる。</li> <li>・ペアで話し合わせる。</li> <li>・自分たちの親切とマザーテレサの親切は同じなのか考えさせる。</li> </ul>
終末 (五分)	<p>4、実際に現地に行ってきた大学生の人にマザーテレサの魅力について語ってもらう。</p> <p>5、授業の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があれば、発表をさせる。</li> </ul>

マザー・テレシヤ

名前 (

)

◎今日の授業の感想を書きましょう！

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for students to write their reflections on the lesson.

## 研究授業（ゲスト講師）「マザー・ハウスでの活動とは」

花田 大樹（桃山学院大学）

〔記録作成：松岡敬興〕

## ◆花田

はい。えっと、マザー・テレサ。ね。すごい人だ  
って言ってたけど、そのすごい人が実際にインドに  
つくった人を助ける、倒れている人を助けるような  
施設っていうのは、実際にコルカタに6個あります。  
今。最初ゼロやったのを6個つくりました。で、そ  
のうちの僕はプレムダンっていう名前の所へ行っ  
てきました。6個のうちの1つね。で、そこでの話を  
しようと思います。今日は。で、実際に日本から行  
くときはね、マザー・テレサみたいに親切にしよう、  
親切にしようと思って行きました。多分みんなも、  
行くなってなったら親切にしようと思って行くと思  
います。ではそこでの生活をちょっと紹介します。こ  
れプレムダンの中の人たちです。元気やんな。元気  
そうやんな。顔見てたら。でも実際は道で倒れてい  
て、ここに来る時は救急車で運ばれてきたという  
ふうに聞いています。僕が2週間行っていた時も、1  
6歳の少年ね、だいたい高校1年生ぐらいかな、運ば  
れてきて2日間点滴打っていたというのを実際に見  
てます。点滴打ったことある？ 多分ないと思うん  
ですけれど。

## ◆児童

ああ、ある。

## ◆花田

ある？ 分かった。そう、2日間、やった。で次、左のお  
じさんは、脳梗塞っていう脳の困ったことになって倒れた  
のを運ばれてきたというふうに聞きました。彼は左手がそ  
れ以降動きません。左足も動きません。だから歩く補助を  
ね、歩くサポートをずっとしてきました。ただ、左手ずっと

グーになってんな。よく見たら。それをドイツの人が、ドイ  
ツ人がおったんやけど、頑張ってる中を洗ってあげ  
ててんやんか。うん。俺は見えてるから歩くサポートだけ  
してたんやけど、実はこの中洗ってないから汚いねんな。  
それを洗ってあげてて、ドイツ人は。あ、見えてるものが  
全てじゃないねんな。サポートって、こういうことを言うね  
んな。本物のサポートってこんなやねんなって衝撃を  
すごく受けて、未だにそれ忘れられません。2年前に行っ  
たんやけど。多分この衝撃は一生忘れへん。見えてるも  
んが全てじゃないねんて。うん。はい、ま、そんな生活を  
ね、世界中の人たち、アメリカ人、スウェーデン人とカス  
ペイン人、色んな人とやってきました。で、そんなサポー  
トをしていく中で、日本から行く前は親切にしようと思っ  
たんやけど、でもやっていくうちに、実はな。親切にしよ  
う、親切にしようと思ったんやけど、実はそれって人とし  
て当たり前なことなんじゃないのかなって思いだしてん。  
2週間で。道に倒れてたら、病院に連れて行くの当たり前  
なんちゃうかなって、思いだしました。だから、そこですご  
く意識が変わったんやな。親切にしようじゃなくて、これや  
んの当たり前やって。ね。だって困ってるっていうふうに  
なりました。僕の中で。日本帰ってきて電車でもね、立っ  
てる人とか困ってる人がいたら助けてあげるのは、親切じゃ  
なくて当たり前やし。友達沢山いるけど、困ってたら「どし  
たん？」って声かけてあげるのって、親切じゃなくて当  
たり前のことやっていうふうに、行く前と日本帰ってきてから  
ですごく大きく変わりました。僕の中でね。うん。で、きっと  
プレムダンに、マザー・テレサの施設に行った人っていう  
のは、自分の国に帰って来る時、俺日本に帰って来る時  
そうやったように、ドイツ人は帰って行く時に親切にす  
るっていう気持ちよりも、実はそうやって人に優しくしたり  
するのって当たり前やねんっていうのを、学んで帰って  
行ったんちゃうかなって。みんなそうやって帰って行った

んじゃないのかなと、今では思っています。じゃね、あの、  
プレミアムダンの話ではないんやけど、最後に一つ動画を見  
てほしいと思います。彼、だいたい君たちと同じぐらい  
の年齢だと思います。バスで9人で行ったんやけど、信号  
待ちしている時に、外であることを日本人を見つけてやっ  
てくれました。ちょっと観てね。20秒ぐらい。何のために  
したと思うか。ちょっと考えてみてください。自分たちで  
ね、はい。

#### ※動画を再生する

##### ◆花田

ま、バスが行っちゃったんやけど。君たちあんなこと  
できる？

##### ◆児童

できひん。

##### ◆児童

うん、できひん。

##### ◆花田

できる人もいるかもしれんけど、だいたいできひんよな。  
でも同じぐらいの歳の人。日本人見つけてやってくれまし  
た。なんでやってくれたと思う？ ちょっと隣の人とばば  
っと話してみくれへん。10秒ぐらい。何で？ 何でや  
ったん？ あんなこと。

##### ◆児童

わからん。

##### ◆花田

俺らのこと楽しませようとしてくれたのか、俺こんなん得  
意やねんてワーツとやってくれたんか。どう思う？ ちょっ  
と考えてみて。

##### ◆児童

……。

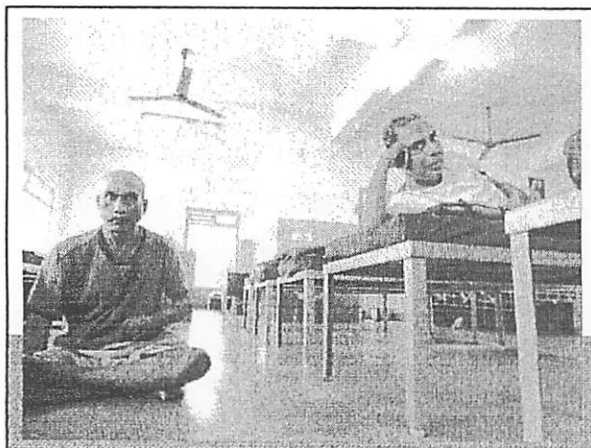
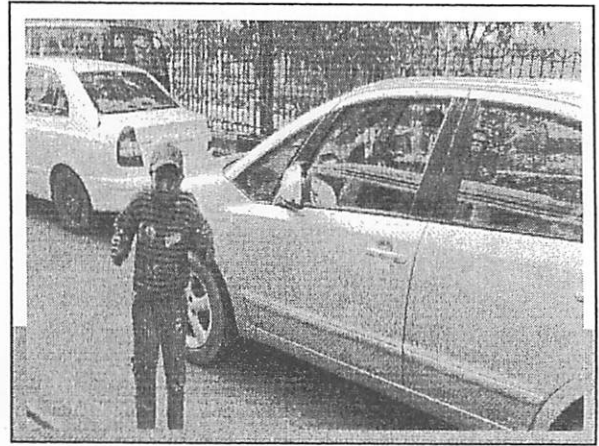
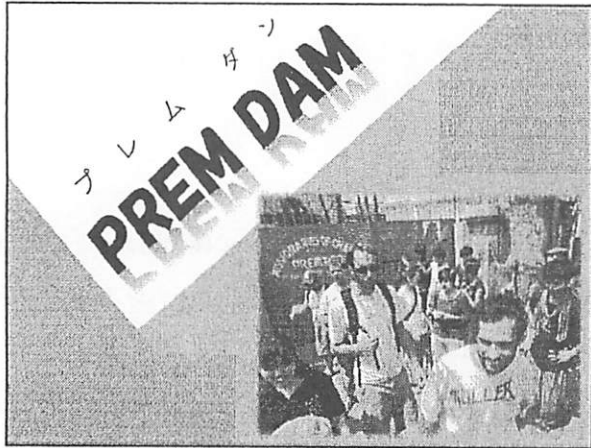
##### ◆児童

……。

##### ◆花田

はい。ごめんな、短いけど。じゃ、僕の考えね。まあ、彼  
はきっと君たちと同じぐらいやけどホームレスで、お金が  
ないから、日本人はお金持ってるから、ああやったらお金  
貰えるんちゃうかと思って、ああいうことをやったと思う。だ  
から、俺たちからお金を貰おうとしていた、彼は。きつと。  
じゃあ、ここで君たちにもう1回考えてほしいねんけど。僕  
ね、彼にお金をあげたほうがよかったのか、あげないほう  
がよかったのか。君たちだったら、あげるのか、あげない  
のか。俺大学生やけど、一緒に行った9人の中でも、あげ  
たほうがいい、あげたらあかんっていうふうに意見がすご  
く分かれました。君たちは、どうでしょう？ 自分自身  
の中でね。っていうことを、ごめんもうね、時間があまりない  
んで。友だちと話し合ったり、辻本先生と話したり、おうち  
帰って「今日こんな話あってん。お金欲しいっていうインド  
人がいるらしい。お母さんやったらあげる？ お父さんや  
ったらあげる？ 僕はどうする」っていうのをちょっとね、  
話してくれたらうれしいかなと思います。少し、マザー・テ  
レサに近づけるチャンスになるかもしれません。すごいマ  
ザー・テレサにね。で、僕はまた2週間後、マザー・テレサ  
に近づきたくてインドに行ってきます。1カ月ぐらい。また  
新しい気持ちになって帰ってくるかもしれません。君たち  
も、考えることで新しい自分になるかもしれません。ぜひ  
ね、考えてみて行動に移してみしてほしいなと思います。  
以上です。ありがとうございます。





道徳教育の「かなめ」である道徳の時間について

(1) 道徳の時間のイメージ

- ・いつも同じような授業が繰り返される時間
- ・こうすればよい、こうしてはいけないと確認する時間
- ・罪の告白を迫る時間
- ・絶対者のような完全性を追求する時間
- ・現実困難なことを明日にでもできるように決意表明する時間

子どもたちから見れば教師が自分に何を言わせたがっているかを探る時間

「子どもの心のある一定の方向へ無理に向けさせること」ではなく

**子ども自身が自らの心を**

**よりよくしようという気持ちの種をまいてあげること**

※全学年・学級で授業時間を確保して年間を通じて計画的に指導することの大切さ。

(2) 授業づくりのちょっとしたワンポイント

導入・・主題の興味、関心を高める

※道徳的価値の自覚に向けての動機付け

※資料中のポイントになる言葉の理解

展開・・ねらい達成の中心的段階

前段 資料を中心に道徳的価値の理解を深める

※ストーリーをしっかりと理解させる工夫

・主人公の行動を問う ・ロールプレイ ・絵

※中心発問でねらいとする価値観にせまる

後段 深められた道徳的価値について自己を振り返りみつめる

※自分を振り返りみつめ、友だちの意見をきく場を作る

終末・・ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、

あたためたりし、今後の発展へとつなげる

説話（子どもたちの様子、教師の体験談など）

説話以外にも（心のノートで整理、手紙や格言の配布、音楽や映像、  
板書をながめる）

○子どもたちの様子で決める

※道徳の時間の授業は保護者へ伝える意識が大切

学年通信、学級通信、学年懇談会、学級懇談会、連絡帳、訪問、電話等



2014 文部科学省  
総合的な教師力向上のための調査研究事業

桃山学院大学 「現職教員と学生とが協働しながら実践的指導力を高める研修の開発」

※ 本事業についてアンケートを行い、その結果を集計し、今後の参考とさせていただきますので、ご協力をお願いします。

あなたがあてはまるものに○をしてください。① 1. 男 2. 女  
② 1. 教員 2. 大学生(教職) 3. 大学生(教職外) 4. 該当なし  
③ 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代

- ①今日のプログラムは、いかがでしたか。  
1. とてもおもしろかった 2. おもしろかった 3. おもしろくなかった 4. わからない
- ②今日のプログラムはわかりやすかったですか。  
1. とてもわかりやすかった 2. わかりやすかった 3. わかりにくかった 4. わからない
- ③今日のプログラムを教材づくりに生かせそうですか。  
1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. あまりそう思わない 4. そうは思わない
- ④このような企画があれば、また参加したいと思いましたか。  
1. 是非参加したい 2. できれば参加したい 3. 参加したいとは思わない 4. わからない
- ⑤このような企画に参加しやすい時期はいつですか。(2つ以上○を付けてもよい)  
① 1. 夏休み 2. 冬休み 3. 土曜日 4. 日曜日 5. その他( )

◎研究授業および研修会について、ご意見・感想など自由に記入してください。

◎2日間(12/15, 1/15)の研修を通して、ご意見・感想など自由に記入してください。

◎今後、新たに研修企画を希望される分野について、ご自由に記入してください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。



## ～アンケート結果～

### 第1日目(12/15)

#### ○研究授業および研修会について、ご意見・感想などを自由に記入してください。

- ・マザー・テレサの活動を、今回の伊藤先生の話で、おいたち、活動、背景、当時のインドの歴史性について、一歩認識を深めることができた。マザー・テレサについて、資料の伝記(子ども向け)、インターネット等で調べてから、道徳の教材、資料として扱っていくことが大事な観点と思いました。終末を押しつけていくのではなく、子どもたちに様々な意見を出させていくことが授業の進め方として気をつけなければと思いました。
- ・偉人を道徳の教材として扱うことは多く、疑問を感じていなかった。しかし、今日話を聞いて、その"危険性"に気づかされた。「今後道徳の教科化に伴い、偉人が道徳の教材になるが増えていく」ということを最近耳にしたが、なぜ？、大丈夫なの？と思った。
- ・人物教材を扱う場合の注意点がよくわかりました。
- ・一方的な価値を教えるのではなく、多面的に捉えることの大切さを改めて思いました。
- ・貧しい人々や病人に対し、自分の生涯をささげたノーベル平和賞をもらった人ということ以外は、詳しいことを何も知らないということが、よくわかりました。
- ・今まで、マザー・テレサは"自分にはまねできない人"と、賞賛の思いしか持っていませんでした。しかし、ご講演を聞いて、非難する人もいるということを知り、偉人を教材として扱うには、賞賛と非難の両側を教師が知ったうえで考えなければならないことを痛感いたしました。
- ・マザー・テレサの活動の実態を知ることができた。実際にボランティアに行った人の話を子どもたちに聞かせると、価値観をゆさぶるだろうと感じた。
- ・マザー・テレサは素晴らしい人だということは知っていたが、今回の企画によりさらに興味が深まったように思う。

#### ○合同研修「マザー・テレサの教材化」の内容について、ご質問など自由に記入してください。

- ・学生さんの熱心な姿勢がとても刺激となりました。合同研修

では、我々よりも積極的に意見を言われていて、自分の消極さを見直す機会となりました。

- ・光村図書「道徳」の本の中にある「マザー・テレサ」を使って授業をする時に、高学年だともう少し詳しい資料があると、子どもたちの心にもっと深く残るのではないかと思います。指導項目によるかと思いますが、何かあればと思います。もちろん学生の体験談も素晴らしいと思います。
- ・大学生のお話が先にわかっただけで、また違った展開になったかなと思います。
- ・資料⇄マザー・テレサの間に、学生さんが入ることで、子どもたちにマザー・テレサが生身の人間として少しだけ近づけるのではないかと。
- ・マザー・テレサの教材化は、まずマザー・テレサについての簡単でもいいので人物伝や実際の様子について知って、教えてもらったりしてから教材づくりを進めることが大事であると思いました。生き方の押しつけにならないように、様々な思いや意見を出させて、考えさせる場面をつくり、道徳的価値の高まりについて考えさせていくことが非常に大事な視点であると思いました。
- ・中心発問以外の授業内での留意点などが気になった。グループワークの時間が長くて、解説が短くなってしまったのが残念だ。
- ・マザー・テレサを教材化することによって、子どもたちの道徳的価値はさらに育つのではないと思う。

#### ○その他ご自由に意見・感想を記入してください。

- ・日々、学習だなと思いました。学生さんからエネルギーをもらい、明日への意欲となりました。すてきな機会を有難うございました。
- ・学校行事との兼ね合いもありますが、夏休みにゆっくり時間をとって行いたい研修です。学期末なので、先生方……。
- ・授業の終わりの部分に、大学生の講話(説話)を入れるのがイメージできておりません。教材を具体の授業にする際、考えていきたいと思っています。
- ・研修を大学と合同で行うことにあたって、もう少し事前に連絡がとりあえればよかったです。私は道徳担当なのですが、

学校職員に今回の研修の案内を(自分がよく分かっておらず)しっかりとできなかつたので…。特に12月→1月の研究授業は日が迫っており、授業者・学年を打ち合わせることが今日まで難しかったです。しかし、新しい取組が始まったというだけで、今回は有意義でした。色々と有難うございました。

- ・偉人伝を扱うことは大変難しいと思っし、慎重に扱うという姿勢が要ると思う。私は今、道徳を教えることはこれからの社会に育っていく子どもたちには、大切な教材を考える場であると思っています。今、横山利弘先生の勉強会に2年前より参加しています。……。今日の勉強は大変役立つ学習会でありました。有難うございました。
- ・マザー・テレサの愛の深さというか、徳の高さはレベルが違いすぎて「道徳」の内容項目には馴染まないのでは？というのが率直な感想です。その上で、今日の講演を伺って、マザー・テレサについて改めて勉強したくなりました。有難うございました。
- ・非常に爽りのある時間であり、有意義に過ごすことができたと感じている。現職の教員の皆様と時間を共有できたことは私にとって大きな財産になった。
- ・今回の企画により、マザー・テレサの興味が深まったので、また勉強の機会が欲しいと思った。
- ・道徳教育についてゆっくり考え、現場の先生方と意見交換することができたのは、とても良い経験になりました。いろいろな教科でやってみたいです。

## **第2日目(1/15)**

### **○研究授業および研修会について、ご意見・感想などを自由に記入してください。**

- ・小学校、大学、市教育委員会の連携があつてこそ、できた取組だと思います。道徳の講話を大学生に、○○のように話して欲しいと持っていくところがキーポイントだと思いました。
- ・学生さんの体験談が、子どもたちが内容項目のねらいを深めることに効果があつた。(マザー・テレサと自分が少し近づけた)。学生さんも教員の討議に参加することで、現場を知ることができたと思う。
- ・大学生とともに研究を行うことで、それぞれの違った思いな

ど出せて良いと思う。ただ、時間的制約もあり、討議を深めるところまでいかなかったのは、少し残念であつた。

- ・大学、小学校、教育委員会の連携で、素晴らしい研修会になったと思います。

### **○2日間の研修を通して、ご意見・感想など自由に記入してください。**

- ・大学生と教員の授業後の感想の観点が大きく違うことがよく分かりました。これは指導主事先生のおかげです。優れた指導主事がいないと、うまくいかなかったと思います。
- ・教材研究を全員で行い、授業をする、という流れが良かった。大学、市教委・学校の三つが連携して取り組むこと、第一歩を踏み出せたのではないかな。
- ・小学校だけではよくできない取組で、このようなことを今後も多方面で協力し合えば素晴らしいと思う。
- ・2日間あることで、より深く考えることができました。夏休みなら、さらにゆっくり取り組めたのではないかな。

### **○今後、新たに研修企画を希望される分野について、ご自由に記入してください。**

- ・個人的には、算数・数学に興味があります。実際には、その教科を研修しようとする学校、その教科を指導する力のある指導主事、と大学の先生という組み合わせでないと難しいと思います。
- ・英語学習など一部連携しているが、深められれば良いと思う。
- ・土曜日、放課後学習における大学生ボランティア活動。研修とは違うかもしれないが、学生の力を今後より一層お借りたいです。

編集担当

桃山学院大学教職課程委員会

松岡 敬興 (経済学部・准教授)

島田 勝正 (国際教養学部・教授)

冷水 啓子 (社会学部・教授)

吉見 研次 (法学部・教授)

伊藤 潔志 (経営学部・准教授)

平成26年度 文部科学省 委嘱事業

「総合的な教師力向上のための調査研究事業

(教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発)」成果報告書

発行年月日 2015年3月31日

編集発行者 〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

桃山学院大学教職課程委員会

松岡 敬興 (事業実施責任者)

TEL. 0725-54-3131、Fax. 0725-54-3202

印刷所 〒537-0011 大阪市東成区東今里2丁目9-13

有限会社 パーフェクト

TEL. 06-6977-0880、Fax. 06-6977-6662

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、桃山学院大学教職課程委員会が実施した平成26年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の成果をまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

